

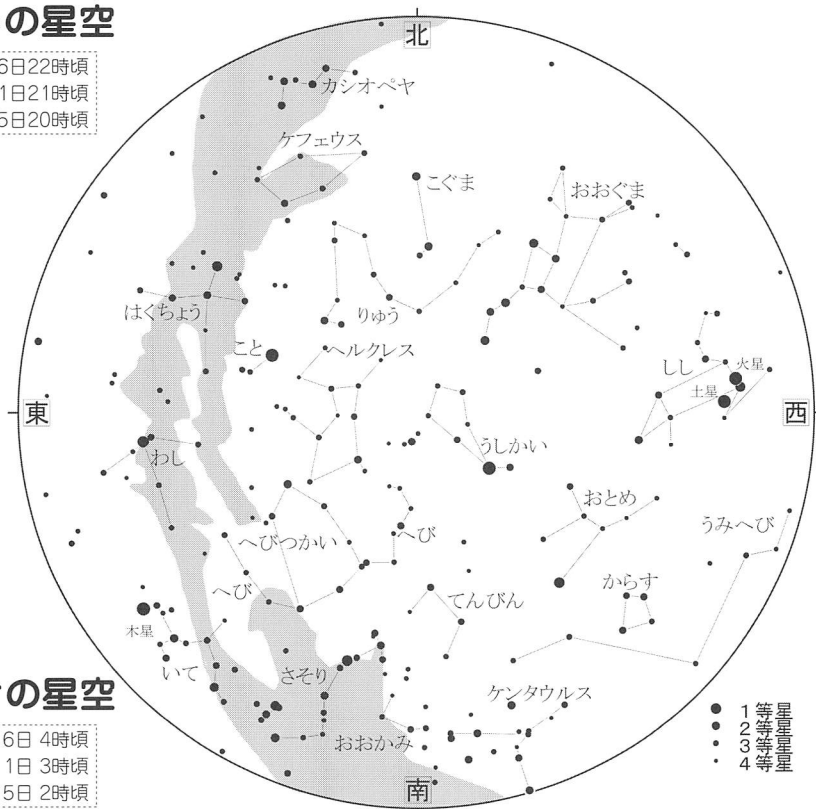
☆星空ガイド 6月16日～7月15日

よいの星空

6月16日22時頃

7月 1日21時頃

15日20時頃

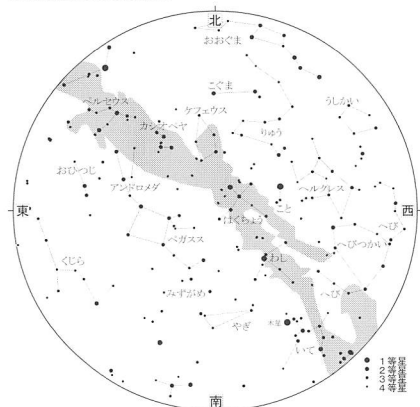


あけの星空

6月 16日 4時頃

7月 1日 3時頃

15日 2時頃



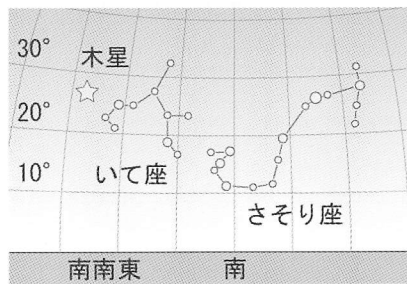
〔太陽と月の出入(大阪)〕

月	日	曜	日の出	日の入	月の出	月の入	月齢
6	16	月	4:44	19:13	17:19	2:22	12.3
	21	土	4:45	19:14	21:18	6:33	17.3
	26	木	4:46	19:15	23:40	11:40	22.3
7	1	火	4:48	19:15	2:16	17:33	27.3
	6	日	4:50	19:14	8:05	21:35	3.0
	11	金	4:53	19:13	13:14	23:50	8.0
	15	火	4:56	19:11	17:04	1:42	12.0

※惑星は2008年7月1日の位置です。

<木星が衝>

7月9日には木星が衝(しょう)の位置に来ます。これは地球から見たときに、木星がちょうど太陽と反対側の位置に来ることをいいます(衝のときの位置関係は、5月号の星空ガイドの図をご参照ください)。太陽と反対側ということは、日没のころ東の空に現れ、真夜中に南中し、日の出のころ西の空に沈むということになります。



7月上旬22時ごろの星空

木星は現在、いて座の南斗六星の近くにあって、 -2.7 等級という大変な明るさで輝いています。また、その西側にはさそり座の大きなS字カーブも見えています。望遠鏡で木星を見れば、表面にある縞模様や、ガリレオ衛星と呼ばれる木星の周りを回っている4つの明るい衛星を観察することができます。この夏休みの夜空は、木星がひととき目立って輝いているのを見ることができるようでしょう。

<西空で火星・土星が接近>

夕方の西空には火星と土星が並んで輝いています。特に7月11日には、この2つの惑星は角度にして 0.6 度ほどの距離まで接近します。また、7月6日には近くに細い月もやってきます。

火星・土星が見えるシーズンもそろそろ終わりです。現在は一年で最も日没が遅い時期で、7月初旬の大阪での日の入りは午後7時過ぎとなります。午後8時ごろにあたりが暗くなりかけたところで、西の空低いところを観察してみましょう。

[こよみと天文現象]

月	日	曜	主な天文現象など
6	17	火	ジュノーの最接近/月が最遠/月とアンタレスがならぶ
	19	木	○満月(3時)
	20	金	月と木星がならぶ
	21	土	夏至
	25	水	火星の夏至
	26	木	●下弦(21時)
	30	月	月とすばるがならぶ

月	日	曜	主な天文現象など
7	1	火	半夏生/月と水星がならぶ
	2	水	月が最近/水星西方最大離角
	3	木	●新月(11時)
	4	金	地球近日点通過
	6	日	月と火星・土星がならぶ
	7	月	小暑/七夕
	9	水	木星が衝
	10	木	●上弦(0時)/月とスピカがならぶ
	11	金	火星と土星の会合
	14	月	月が最遠/月とアンタレスがならぶ

江越航(科学館学芸員)